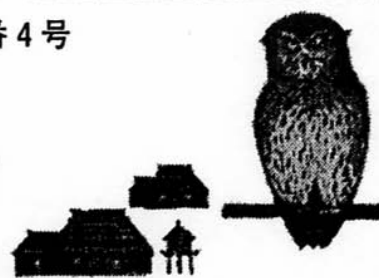


# コタンメール

第15号 平成17年5月20日 発行



## カムイへの感謝と安全を願う春の祈り

# コ タ ン ノ ミ

5月7日土曜日、春のコタンノミがアイヌ民族博物館ポロチセで行われました。極寒の冬を乗り越えた喜びと、漁や山菜取りなどの夏仕事の安全を祈願する恒例のコタンノミには、道内各地からお客さまが集まりました。



アペフチカムイ（火の女神）への祈り



シンヌラッパ（先祖供養） 祭壇に供物を捧げる

### アシリカンピソシ エク ナ （新しい本が来たよ）

◆『金成マツ筆録ユカㇿ既刊20編の研究と分析(1)』（編 白老 楽しく・やさしいアイヌ語教室）

登別市幌別出身の金成マツさんが書き残したユカㇿ（英雄叙事詩）について解説した入門書です。白老アイヌ語教室の講師のひとり、大須賀るゑ子さんが代表を務めるアイヌ語サークル「白老 楽しく・やさしいアイヌ語教室」が作成しました。

アイヌ語学者<sup>ちりましほ</sup>知里真志保の叔母にあたる金成マツさんは、生涯に98編のユカㇿを残しました。これまでに、このうちの20編が北海道教育委員会によって整理公刊されていますが、金成さんの偉業の全貌を明らかにする作業はまだまだこれからといえます。同サークルでは、昨年度から金成さんの筆録資料の一覧作成や、既に刊行されたユカㇿの分析に取り組んでいるとのことで、その成果をまとめたものが本書です。これまでローマ字表記と逐語訳の形で公開されていたものに、カタカナ表記と散文の訳をつけました。また、ユカㇿなどの物語では、常套句<sup>じょうとうく</sup>（決まりきった言い回し）が多用されますが、本書ではこの常套句<sup>じょうとうく</sup>の分類を行い、巻末に常套句の索引も付けています。

（北原次郎太）

# へまた・てまな

へまた＝なに、てまな＝どのように・・・構

## ● 「シシャモ？それともシサモ？」

先日、名古屋で視覚障害者のために図書の音訳をしている方から問い合わせをいただきました。武田泰淳たいじゆんの小説「ひかりごけ」の註で、「シャモ(＝和人)」の語源とされている「Shamormoshir」という言葉の発音を教えて欲しいというご質問でした。

「Shamormoshir」という言葉は、最近アイヌ語の勉強をはじめた方には見慣れない書き方かもしれません。古いアイヌ語の本では、サ行音を「sha、shi、shu、she、sho」のように書いたものがあります。これは日本語的に読めば「シャ、シ、シュ、シエ、シヨ」という音です。これに対し現在では、サ行音を「sa、si、su、se、so」と書く方が一般的です。こちらは「サ、シ、ス、セ、ソ」と読みたくなります。「Shamormoshir」の場合は「samormosir」と書きます。

なぜこのように書き方が変わったのでしょうか。アイヌ語が時代とともに変化したのでしょうか。

実は、アイヌ語では「シャ」と「サ」の発音を区別しないのです。これは日本語話者が英語のrock「岩」とlock「鍵」の発音を区別しないのと同じです。よく聞けば違う音だということはわかるでしょうが、それで言葉の意味が変わるということはありません。ですから「sha」と書いて「サ」と読む、あるいは「sa」と書いて「シャ」と読んでもどちらでもいいのです。

鶴川名産のシシャモの語源が、アイヌ語のスサムだという話はご存知の方も多いかもしれません。この場合もスサムとシュシャムのどちらで発音してもいいのです。

どちらに近く発音するかは、個人のクセによります。ですから、いつも「シャ」「シュ」「シヨ」と発音していた人の発音に近づきたいのであれば、そのように読めばいいでしょうし、反対でも間違いではありません。今回の場合はアイヌ語一般についての問い合わせでしたので、どちらでも構わないとお答えしました。むしろr(小文字のラリルレロ)の発音の方が説明が難しく、朗読担当者と直接電話で話しながら何度も発音してもらいました。

だそく蛇足かも知れませんが、小説「ひかりごけ」では samormosir 「側の国」を「シャモ」の語源だとしています。これに対し、samorunkur という言葉もあります。これは「samor(側/本州)」「un(～にいる、ある)」「kur(人)」と分解でき、「本州人」と訳せます。「シャモ」というのは人や民族をあらわす言葉ですから、こちらの方が語源として正しいという説もあります。(北原次郎太)

### 編集後記

毎朝、ポロト湖を見ながら博物館へ向かうのが私の日課となっています。

毎日表情を変えるポロト湖は、時には私の心情をゆるがせるほど暗く、時には私を晴れ晴れとさせるほど輝いています。

渡りの季節には「白鳥の湖」となり、冬には一面の氷原になります。

5月、湖畔の木々は次第に色づいてきました。湖面には丸木舟も浮かべられました。

一日の仕事が終わって帰路につく一時、湖畔にたたずんで、また明日を考えます。

木田瑞恵

### ● これからの予定

6月	5日	日	アイヌ語教室「バス見学会 『ロシア民族学博物館アイヌ資料展』
	11日	土	アイヌ語教室「アイヌ語入門 2」
	23日	木	アイヌ語教室「弁論大会にむけて 1」
7月	1日	金	アイヌ語教室「弁論大会にむけて 2」
	2日	土	アイヌ語教室「弁論大会にむけて 3」
			アイヌ文化教室 「ウバユリからでんぷんをとろう」
8月	16日	土	アイヌ語教室「アイヌ語入門 3」
	22日	金	アイヌ語教室「弁論大会にむけて 4」
	31日	日	アイヌ文化教室「音楽講座 トンコリ」

● コタンメールはホームページでも見られます。  
THE AINU MUSEUM アイヌ民族博物館

URL : <http://www.ainu-museum.or.jp>  
E-mail : [museum@ainu-museum.or.jp](mailto:museum@ainu-museum.or.jp)